

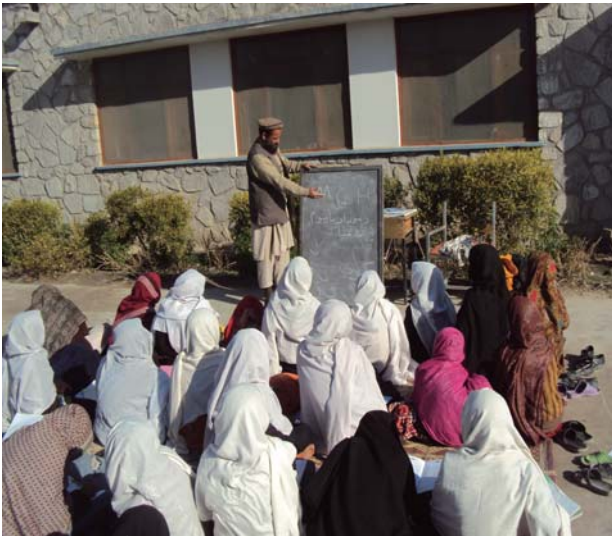
ジョイセフ・パートナーシップ・プログラム (JPP)



途上国の妊産婦と女性を守る

アフガニスタン

妊産婦と女性を守る保健推進プロジェクト 2011 年報告書



アフガニスタンの妊産婦と女性の命と健康を守るために

妊娠や出産が原因で亡くなる女性の割合（妊産婦死亡率）が世界で一番高い国、アフガニスタン。

出生10万に対し、1400人の女性が命を落としています。アフガニスタンの妊産婦と女性の命と健康を守るために、ジョイセフは、現地の団体と協力し、2002年より妊産婦と女性を守る保健推進プロジェクトを実施しています。

プロジェクト実施のための活動資金には、企業・団体・個人からの寄付金を活用させていただきました。

アフガニスタン基本データ

- ・人口^{*}：3240万人
- ・面積：652,225 km²（日本の約1.7倍）
- ・首都：カブール
- ・人種：パシュトゥーン人、タジク人 他
- ・公用語：ダリー語、パシュトゥー語
- ・宗教：イスラム教
- ・平均寿命^{*}：49歳（男女とも）
- ・合計特殊出生率（1人の女性が一生に産む子どもの平均数）^{*}：6.0人（日本1.4人）
- ・妊産婦死亡率（出生10万対）^{*}：1400（日本6）
- ・5歳未満児死亡率（出生千対）^{*}：198.6（日本3.3）
- ・中等教育就学率^{*}：男38%、女15%（日本98%（男女とも））

^{*}出典：「世界人口白書 2011」



課題

- ・長く内戦が続いたアフガニスタンでは、教育や保健医療にかかわる基盤が大きなダメージを受けました。その結果、今でも5人に1人の子どもは、5歳の誕生日を迎えるまでに亡くなっています。また、妊娠や出産が原因で亡くなる女性は、出生10万に対し1400人と世界で最も高い数字となっています。
- ・アフガニスタンの妊産婦死亡の主な背景には、保健医療サービスへのアクセスと教育の問題が挙げられます。
 - ・タリバン政権時代には、女性が教育を受けることが禁止されていたため、現在も15歳以上の女性の約8割は読み書きができません。読み書きができないことは、自分の体を守る知識を十分に得られないことを意味します。
 - ・アフガニスタンの女性の10人に8人は、医師や助産師の介助を受けずに自宅などで出産しています。このため、母体に異変が起きても治療を受けられず、多くの妊産婦が感染症や出血多量などで命を落としています。

そのため、ジョイセフでは、2002年より、現地パートナー団体と協力し、保健医療面からの支援活動を実施しています。また、2004年からは、想い出のランドセルギフトの活動を通して、教育面で子どもたちへのサポートも始めました。

母子保健支援事業



母子保健支援プロジェクト

プロジェクト期間：2011年1月～12月

プロジェクト地域：ナンガハール州バースド県

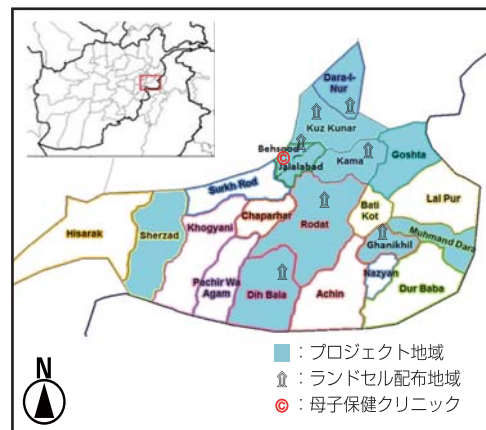
対象人口：2万7000人

プロジェクト目標：

母子保健に関する情報とサービスをより多くの妊産婦と女性に届け、母子保健を向上する

重点活動：

1. クリニックでの母子保健サービス提供
2. クリニックとヘルスポスト（保健医療サービス拠点）との連携による産前・産後健診の推進
3. 保健衛生に関する子どもたちの知識と意識の向上



クリニックでの母子保健サービス提供

プロジェクト地域の住民 2万7000 人に対し、以下のサービスを提供しました。

- ・ 保健医療サービス
- ・ 産前・産後健診ケア
- ・ 施設分娩
- ・ 避妊薬（具）の提供
- ・ 予防接種
- ・ 結核等感染症の予防と治療
- ・ 妊産婦と女性に対する母子保健・家族計画に係る啓発教育



文化的な理由から、女性は男性医師の診察を受けることができません。そのため、女性医師の存在が不可欠になります。ジョイセフの母子保健クリニックでは、女性医師を配置し、女性への保健医療サービスを提供できる体制を整えています。

2011年には、延べ2500人以上の女性が産前健診（1986件）と産後健診（578件）を受診しました。

「クリニックが近くにできたことで、地域の人たちの母子保健への意識が大きく変わりました。出産で亡くなることは防げるんだということが多くの女性たちの心の支えになっています」。

[ザイナブさん（25歳）]



クリニックでの出産

クリニックで出産することで、万が一母体に異変が起きても必要な治療が受けられるようになります。2011 年には、51 人の女性がクリニックを利用し安全に出産をすることができました。クリニックでは、女性が、自宅出産でなく、施設での出産を選択するように啓発活動も行っています。

経口生ポリオワクチンの接種

クリニックでのワクチン接種だけでなく、クリニックスタッフが農村部に出かけ、定期的な集団接種も行いました。



母子保健・家族計画に関する啓発教育

診察を待つ妊産婦や女性に対し、クリニックスタッフより、安全な出産のために大切な情報や母体保護のための家族計画の重要性を伝えました。

クリニックとヘルスポスト(保健医療サービス拠点)との連携による産前・産後健診受診の推進

クリニックで研修を受けた 24 人のコミュニティ・ヘルスワーカーが、12 村でヘルスポスト活動を行いました。一つのヘルスポストで、100～150 家族の健康をサポートしています。

- ・軽い怪我・病気の治療
- ・母子保健・家族計画に関する教育
- ・産前・産後健診、施設分娩の啓発推進
- ・避妊薬(具)の配付 他

保健衛生に関する子どもたちの知識と意識の向上

地域で尊敬を集める小学校教師を母子保健推進員として育成し、延べ 7 万人の児童に対して、保健衛生や疾病予防に関わる健康教育活動を行いました。

- ・衛生管理全般
- ・下痢の予防
- ・マラリア、寄生虫等感染症の予防

母子保健推進員は、地域の男性の集まりで母子保健の話をする活動も行い、男性の母子保健に対する理解の促進にも取り組んでいます。



薬の服用について説明するヘルスワーカー。



母子保健推進員は、授業が始まる前の時間を利用して、児童への保健衛生教育を行います。

内戦により校舎や教室が破壊された学校も少なくありません。今でも多くの子どもたちが青空教室で学んでいます。

(シェワ県タウカル・ババ小学校)



石鹸で手を洗ったり、食べる前に野菜や果物をきちんと洗うことなど、先生から教わったことをみんなの前で発表する女子児童。

(バースト県 サラチ・アリ・カン小学校)

教育支援事業



思い出のランドセルギフト

2004年から、ナンガハール州の子どもたちにランドセルと文具を配付しています。

2011年度は、1万6000人の子どもたちに届けました。

妊娠・出産が原因で亡くなる女性の命を救う第一歩は、女性自身が知識を持つこと。それは赤ちゃんを安全に産み育て、自分と家族の健康を守ることに繋がります。日本から贈られたランドセルは、子どもたちが学校へ行くきっかけとなっています。



ランドセルを受け取った5年生のバスマさんは「ランドセルを背負って小学校に通い続けたい。一生懸命勉強していつかアフガニスタンのために働くの」と目を輝かせます。



ランドセルを配付した村では、地域全体が教育水準を少しでも高めるために積極的に取り組むようになっています。

村の住民は「ランドセルを配りながら、次は老朽化した校舎をどうにかしなければと思いました」と語ります。

「ランドセルを男女両方に平等に配ることで女の子も同じように学校へ通うのが当たり前だと思うでしょう。男女の機会均等の教育が未来のアフガニスタンを担っているのです」と学校の校長から心強いメッセージをいただきました。

ジョイセフスタッフより一言

旧ソ連による侵攻。内戦。タリバン。多くの人が最初に思い浮かべるアフガニスタンのイメージではないでしょうか。その陰で、多くの女性が妊娠や出産が原因で命を落としている現状はあまり知られていません。

世界で一番妊産婦死亡率が高いアフガニスタンの状況を改善するためには、保健医療に携わる人材や医薬品、保健医療施設の充実化といった保健医療システムの改善に加えて、保健衛生や母子保健に対する女兒や女性、また男性の知識・意識の向上といった包括的な取り組みが求められます。国際社会からの支援がまだまだ必要とされています。

2012 年は、ジョイセフは特に啓発教育の強化に重点を置き、様々な手段を通じてより多くの女性たちに母子保健の大切な情報を伝え、また、産前産後健診の受診と保健医療施設での出産の呼びかけに力を入れていきます。これからもみなさまのご支援をよろしくお願いいたします。(柚山)